

第4学年
外国語活動

単元名『オリジナルアルファベット文字辞典を作ろう』

Let's Try! 2 Unit6

単元（題材）の目標

活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。

（知識及び技能）

アルファベットの小文字を使ったコミュニケーションの中で、自分の好きな色を伝え合う。

（思考力、判断力、表現力等）

身の回りにあるアルファベットで表されたものを見つけようとする。

（学びに向かう力、人間性等）

指導のポイント

豊かなインプットとアウトプットによる慣れ親しみ

- ・歌やチャンツなどでアルファベットの名称に十分慣れ親しませる。
- ・体を動かしたり、体でアルファベットの形を表現したりする活動を取り入れてアルファベットの形に慣れ親しませる。これらの活動は高学年で内容として入ってくる『書く』活動への導入と位置づけている。
- ・ゲームを通してアルファベットの名称を言う場面を多く設定している。

友達との関わりを大切にした体験的な言語活動

- ・第4時では、児童が好きな色をクイズのように当て合う活動を行う。文字のヒントから相手の好きな色当て活動は、既習表現（“Do you have ~?” “Yes, I do.”/“No, I don't.”）の復習になっている。児童は知らなかったことを知ることができる活動、とりわけ友達のことであれば意欲的に取り組むことが多い。主体的に活動に取り組み、「〇〇さんって実は△△色が好きなんだ。僕と同じなんだあ。」とか「□□くんって◇◇色が好きなんだ。意外だな。」と友達の新しい一面を発見できる活動になるように支援したい。

深い学びとの関わり

- ・第5時には『オリジナルアルファベット文字辞典』をみんなで協力して作る。身の回りにならんでいるアルファベットを見つけ集めさせる。それを児童に分類させたり、読みを類推させたり、順番をどうするかなど考えさせたりする活動を通してより深い学びに結びつくと考える。自分たちの力で作り上げた辞典は目に見える学びの成果となり、児童の学びに向かう気持ちを育てる。

文字の指導

- ・ユニバーサルデザインの観点から教材のアルファベットには文字の形が捉えやすいとされる『NaraPenmanship フォント (<http://www.nps.ed.jp/nara-c/gakushi/kura/>)』を使った。

我が国と郷土の文化を発信

- ・教材1は奈良県の名勝や遺産とその位置を参考にしている。歴史的価値の高いもの・豊かで多様な風土を網羅しその全てを誌面に載せることはできない。しかし我々の郷土の魅力を発信する際に必要な語彙を紹介することは重要であると考え。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土の素晴らしさを再確認できるように、そしてそれらを言語の垣根を超えて発信できる力の素地を養っていききたい。

※準備物（教材123 サイコロ）

単元（題材）の指導計画

	児童の学習活動	指導上の留意点
1	教材1で、身の回りにある看板や標示を見て、アルファベットの小文字を知る。 教材1の小文字を見ながら、歌やチャントを歌ったり言ったりする。 いくつかの文字を教師と一緒に『空書き』して小文字に慣れ親しむ。	書かれた文字と読み方を結びつける。 26文字すべて『空書き』する必要はない。a,d,g,n,hなど文字の形が似たものを比較し、その違いを児童が話し合ったり発表したりするようにする。教師は児童がその違いに気づくように促し、児童自身の言葉を引き出すようにする。
2	教材1からアルファベットの小文字を探して発表する。 教材の周りにある小文字を使って『テリトリーゲーム』をする。	身の回りには、アルファベットが多く使われていることに気付くこと、小文字を知ることがねらいである。 『テリトリーゲーム』 小文字の名称の読み方に慣れ親しむことがねらいである。グループになり『START』に消しゴムを置く。サイコロをふって小文字の名称を言いながら進む。反対周りの消しゴムとぶつかったり同じコマに止まったりしたらジャンケン。負けたらスタートからやり直し。先に相手の『START』に消しゴムを進めた方の勝ち。
3	アルファベットカード（小文字のみ）を使って Gesture game をする。 アルファベットカード（大文字小文字どちらも）を使って Matching game をする。	児童の実態に合わせ26文字使わず、予め数枚選んで使わせてもよい。
4	教材2を使って教師による質問を聞きどの看板や標示かを考える。 教材3を使って10色から好きな色を選び、ペアになって文字について尋ね合い、相手の色を当てる。	小文字の読み方に慣れ親しむことがねらいである。児童の実態に応じて、活動の前に文字の名称の読み方を再確認しておくことよい。 題材を自分の好きな色とすることにより、相手の新しい情報を得ることができ、友達について新たな一面を知ることができる。
5	『オリジナルアルファベット文字辞典』を作る	児童には、事前に『オリジナルアルファベット文字辞典』を作ることを知らせておく。お菓子の箱や袋、電化製品のパッケージ、雑誌の切り抜き、看板や標識の写真などを探して持って来させる。大文字だけのものとそうでないものに分類したり、英語・ローマ字などで分類したりするようにする。児童は読み方を予想し発表したり話し合ったりする。できるだけ児童から読み方を引き出す。児童が持ってきたものをスクラップ・ブックや画用紙などに貼ってまとめ『オリジナルアルファベット文字辞典』としていつでも見られるようにしておく。

※教材1は、実際に身の回りで目にする文字は多様であることから、大文字・小文字どちらも用いたり、筆記体を用いたりしている。文字の形の多様さを児童に伝えたいが、無理に読ませるようなことは求めている。

展開例（本時4 / 5）

本時の目標		アルファベットの小文字を使ったコミュニケーションの中で、自分の好きな色を伝え合う。
児童の学習活動		指導上の留意点
導 入	○挨拶をする。	全体に挨拶する。
	○教材の小文字を見ながら、アルファベットの名前の読みを復習する。	児童に自由にペアを組ませ、一人ひとり挨拶できるようにする。 挨拶が終わった後は、それぞれ何と答えたか質問する。
展 開	友達の好きな色を知ろう。	
	○教材2を使って教師による質問を聞き教材2のどの看板や標示かを考える。	・注目すべき文字や箇所を伝えスク립トの英文の意味が分からない児童の支援をする。この時例えば「letter(s)は文字という意味だよ。four letters だから4文字ということだね。」と教師が毎回のように逐語訳するのではなく、既習単語やジェスチャーなどで児童が意味を類推できるように支援する。
	<p>“教師の発話例”</p> <p>I have four letters. I have a “T” and an “X”. Who am I? (TAXI) I have two “f” s and two “e” s. Who am I? (coffee)</p>	
	○教材2の看板や標示から一つ選び、ペアになって文字について質問を聞き教材2のどの看板や標示かを考える。	・活動に入る前に、代表児童に一つの看板や標示を選ばせる。指導者がDo you have～?と尋ね、他の児童も一緒に質問するように巻き込みながら、活動の流れを提示する。
<p>“児童の発話例”</p> <p>A: What is my sign? A: Yes, I do. A: No, I don’ t. A: Yes, I do. A: That’s right!</p> <p>B: Do you have an “h” ? B: Do you have a “b” ? B: Do you have an “o” ? B: I got it! It’s “hospital” !</p>		
○教材3を使って10色から好きな色を選び、ペアになって文字について尋ね合い、相手の色を当てる。		
<p>“児童の発話例”</p> <p>A: What is my favorite color? A: Yes, I do. A: No, I don’ t. A: Yes, I do. A: That’ s right! I like white!</p> <p>B: Do you have a “w” ? B: Do you have a “b” ? B: Do you have an “h” ? B: I got it! “white” !</p>		
お ま け	○振り返りをする。	・積極的に英語を使っている児童についてよかった点をほめる。
	○挨拶をする。	・友達の新しい一面や新しく学んだことを交流できるとよい。